

永井 啓子 (1999・産社)

A：岩手県コース

岩手の町は静かな所ばかりだなと感じた。これが震災の影響なのかどうかは校友の方の話を伺うまでは分からなかった。

岩手の人是我慢強く静かで真面目で辛さや感情をさらけ出すことが少ないそう。しかし、もともと過疎化傾向の土地に今回の震災、他の土地で生活していけることが分かれば元の地に戻ってこない。この戸を活性化させるには生きる目標が必要なのだ、と。

そんな中、岩手へ行く前から興味を持っていた刺し子プロジェクトはとても意味のある企画のように感じた。実際にもものづくりをされているお母さんたちの話を伺えなかったのは残念だが、企画どおりにうまく進行してくれることを願う。

私がすぐに出来ることは、このプロジェクトを他の人達に伝え、利用してもらおうことぐらいだろう。このプロジェクトだけでなく、こと土地のことを常に他者に知ってもらっていることが、支援になるのではないだろうか。

人の興味は移り気である。世界では様々な事が日々起こっている。そのため限られた人々を永久的に特別扱いすることはできないが興味を持ってもらうための魅力づくり、そして、それを継続させるセンスと根気と発信力が何事にも必要なのだと思う。

一人の努力では難しいが、一方向だけでなく多方向へ伝える努力をお互いにしていけたらと思っている。